

令和6年度第2回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和7年3月5日(水) 15:00～17:00

2 出席者

協議会委員	太田委員	角本委員	川石委員	黒岩委員	坂下委員
	津谷委員	中山委員	西海委員	藤井委員	森委員
教委事務局	社会教育課	木原副課長	加藤主任指導主事		
県立図書館	野村館長	小藤次長			
	櫻井館長補佐兼総務課長	藪本利用サービス課長	前川ふるさと・資料課長		

3 議事

(1) 県立図書館運営状況について

館長補佐より、「県立図書館の運営状況」(資料1)、次長より「令和7年度 県立図書館の取組」(資料2)に基づいて説明。

- (委員) 学校セット貸出は30冊を1セットして貸出を行っているという説明があったが、10冊に満たない数で貸出を行っている事例がある。どのような事情で少ない冊数で学校セット貸出を行っているのか。
- (図書館) 基本はテーマごとに組んだ30冊程度のセットを貸出しているが、借りたい本を指定される等の要望があった場合は少数での貸出し方になっている。
- (委員) 県立図書館でしか借りられない資料ということは、学習に直結しているのではないかと思う。すでに利用している学校から事例を紹介していただき、学校セット貸出の授業での活用方法を普及していただきたい。
- (委員) 学校セット貸出について、令和5年度はほとんどが高等学校の利用だったが、令和6年度は小中学校の利用が増えている。県立図書館は専門書が多いが、小中学校の児童生徒にはどのような本を貸出しているのか。
- (図書館) 令和6年度の小中学校の利用が増えている要因として、市町教育委員会に広報していることが考えられる。小学生向けのSDGs関連の本や「なるにはBOOKS」など、学校セット貸出用に本を購入しており、利用いただいている。
- (委員) 広報はどのように行っているのか。例えばチラシ配布等を行っているのか。
- (図書館) ホームページに詳細な案内を掲載しているため、口頭でご案内している。
- (図書館) 通常、県立図書館は学術書や専門書を基本として所蔵しているが、学校支援を目的に、児童生徒向けの書籍を随時購入するようにしており、それらの本が主に借りられている。
- (委員) チラシのような紙の広報物があれば、さらに認知度が高まるように思う。作成を検討いただきたい。
- (委員) 京都府立図書館では、学校セット貸出の資料を並べた背表紙の写真をHPに載せている。兵庫県立図書館でも学校セット貸出のセット内容が目に見えてわかるように、1セットでも良いので資料を並べた背表紙の写真をホームページに載せると、イメージが湧きやすく利用につながるのではないかと思う。
- (委員) インターネットでの利用登録者数が増加している。簡単に検索ができたり、貸出申込みができたりして良いことだと思う。子どもの中には、学校や学校の図書室に行けない子がいるが、そのような児童生徒など、望んでいる人に届くような周知ができたら良いと思う。子ども向けの電子書籍がさらに充実したら、読みたい本がすぐに見つかり、興味関心に繋がりが、県立図書館に足を運んでもらえるきっかけになるのではないかと思う。
- (委員) 令和7年度の企画展示について、「大阪・関西万博～ひょうごフィールドパビリオン～」は具体的にどのような展示を予定しているのか。
- (図書館) 県の万博推進課と連携し、4月以降に調整を進めていくため、現段階でお話できることはない。
- (委員) ボランティアグループ「兵庫ビデオサークル」の協力によるミニシアターについて、実施

後のアンケートは行っているのか。

(図 書 館) 行っていない。

(委 員) ミニシアターの参加者にアンケートを書いてもらうようにして、今後どのような作品を上映してほしいか、意見をまとめていただきたい。

(委 員) 神戸地方方法務局との連携事業など、今後も県立図書館でしかできない事業を行ってほしい。また、著作権について、子どもたちに分かりやすく年齢に合った形式で講座を行っていただきたい。

(図 書 館) 次回企画の参考にさせていただく。

(委 員) 現代の学生がどれだけ本を読むかと問うと、非常に心もとない状況である。そんな中で図書館の位置付けとは。本を必要とする人が来館し、図書館という資産を活用するという形式から変わる必要がある。アウトリーチ事業も実施しているが、県立図書館はこれからどんな方向に向かっていくのか。県立図書館のビジョンを教えていただきたい。

(図 書 館) 県立図書館は市町立図書館と棲み分けをしており、市町立図書館は身近な図書を提供されるのに対し、県立図書館は大学図書館で扱うような専門書や学術書を備えておきたいという基本的な考え方を持っている。また、兵庫県は瀬戸内海から日本海にまたがるほど広大で、明石にある県立図書館に遠方の方の来館は難しいので、電子書籍を導入するなど非来館型での利用を促進したいと考えている。非来館型ということではこれまでも協力貸出や遠隔地利用者返却をやってきたが利用は少ないので、電子書籍を使っていただくことをきっかけに、協力貸出や遠隔地利用者返却も知っていただき、県内全域のみなさんに調べものに使っていただける図書館をめざしている。

(委 員) 専門的な知識を本で調べる機会を作ることがこれまで以上に重要になり、そのひとつが学校への支援だと思う。本を借りてどのように探究活動等を行ったのか、実践記録があれば、先生方はそれを真似し、気軽に使っていただけると思う。また、図書館の利用について、図書館に行くといいことがある、わくわくすることがある、ということを伝える工夫が必要だと思う。例えばSNSでの情報発信で、図書館ツアーや行事の内容、図書館の中を検索する動画などを公開するなど。本に出会うきっかけを作らないと、これから寂しくなっていくように思う。5年から10年の間に必ず訪れる現実だと思うので、少しずつでも考えていただけたらと思う。

(図 書 館) 非常に難しい課題だと認識している。仰るとおり、図書館の空間自体が知的好奇心を掻き立てることが大事だと思う。図書館の中をぶらぶらすることで知に出会う、そのおもしろさをどう伝えていくのかをこれから考えていきたい。今後、全国の取組も見えていきながら考える。

(委 員) 市町の図書館も同じような状況だと考える。人気のある本は貸出できているが、貸出が伸びない本もあり、その中で色々な工夫をしていると思う。お互いにノウハウを交換していると思うが、場合によっては、市町立図書館と共催し、同じイベントを複数の場所で行ってもいいかと思う。また、情報の共有もできる範囲で行ってほしい。

(図 書 館) 意見交換をしながらお互いに良いアイデアを持ち寄り、県内図書館全体としてうまくできればいいと思う。

(委 員) 学校との連携が重要だと考える。学校の図書室にも本はあるが、予算がなく、図書まで予算が回せない。子どもは本が大好きで、調べ学習にも必要とされている。ぜひ小中学校と連携をしていただきたい。

(図 書 館) 過去に県教育委員会にも提案をしたことがあるが、具体的にできることを改めて提案していきたい。

(図 書 館) 県内の小中学校の図書について、県立図書館が一手に引き受けるのは難しいところがある。市町立図書館も、小中学校と連携をしていると思う。うまくいっている事例が共有できれば、他の図書館にも参考になると思うので、県内図書館全体で共有できたらと思う。

(委 員) 自分が小学校の教員をしていた時、授業で市町立図書館の資料を利用した際、例えば環境学習や鳥について等、同じ時期に同じ本の貸出希望が(他の小学校と)重なることがあった。そのときに、県立図書館にも同じ本があるということを市町立図書館から伺い、県立図書館から資料を借りたことがある。どのような本が人気か、どのような本が足りないのか、市町立図書館との担当者会議等の際に、意見を集めたらいいかと思う。

(委 員) 小学校が校外学習に来られているが、県立図書館内の見学をしているのか。

(図 書 館) 県立図書館内と明石市立文化博物館の見学をしている。

- (委員) 小中学生が校外学習に来るのはとても良いことだと思う。他館との連携を増やすことで、小中学校の県立図書館への見学希望が増えると思う。
- (委員) 第2研修室の自習室としての開放について、自習室として利用できることは大切なことだと思う。先日、講座に参加させていただいた。内容がわかりやすく、良い講座だった。講座内容に関連する本が表紙を見せる置き方で並べられ、関連するブックリストも準備されており、思いのこもった準備がされていて良かった。前方に配置されており、緊張して見に行くのに勇気が必要だったため、後方の出入り口付近に配置していただけたら、どなたでも見に行きやすかったように思う。
- (委員) 実際に足を運んだからこそリアルな意見。すぐ対応していただけたらと思う。
- (委員) 自習室を利用している人が県立図書館自体を利用するための働きかけや工夫をしているのか。勉強してそのまま帰るのではなく、本を見に行こうと思える働きかけをしているのか。
- (図書館) 普段から閲覧室を利用している学生が自習室を利用していると考えているため、お考えのような働きかけはしていない。
- (委員) 自習室の空きスペースに本の表紙を並べて置く等、自習室という意識ではなく、図書館という意識を持ってもらえるような工夫をしていただけたらと思う。
- (委員) 探究学習が小中高等学校でさかんに実施されているが、「調べる」といえば目の前のタブレットで検索して上位に挙がった結果だけで調べたことにしてしまう。図書館に行かず、インターネットで調べたことを、「調べる」ことだと思っており、本来の「調べる」ということがどんなことか分かっていない。例えば県立図書館で調べ方の講習があれば、学生の学びになると思う。県立図書館で調べ、学び、発表ができれば、良い経験になると思う。高校生は専門書に触れる機会ができ、調べ方を学び、大学に進学しても、調べてみようと思ってもらえるきっかけになるため、このような機会ができたらと思う。
- (図書館) 現在、学校への出前講座を行っているが、県立図書館で行うことも検討する。
- (委員) 50周年記念事業のなかで、玉岡かおる先生の講演を含め、素晴らしい式典だった。蔵書数も、電子書籍の冊数も、きちんと予算を確保して確実に増やしているが、貸出冊数が伸びていない。人口減少も理由の一つであると思うが、人口の6割が、一カ月に1冊も本を読まない。その6割の方に、半年や1年に1回でも本を読んでもらえるように、市立図書館でも書店や地元出版社と連携していこうと考えている。県立図書館と意見を交換しながら本好きの人を増やしていきたい。
- (委員) どのように書店と連携するのか。
- (委員) 町の書店とこれから調整を進める。地元出版社のB L出版のコーナーを作り、貸出はできないがその場で読めるようにしている。定期的に出版社を変えて継続する予定。また、本を紹介するSNSが、若い人向けに人気がある。フォロワー数の多い方に来ていただき、「あなたのための選書」をしてもらうなど、気軽に図書館に行ってみようかなと思えるようなイベントをしていく。
- (図書館) 当館でも同じ年に50周年を迎えるということでB L出版とコラボ企画を行った。B L出版がメジャーとされている絵本を多数寄贈いただき、絵本のコラボ展示をしたが、懐かしんで座り込んで読んでおられた大人が何人もいらした。県立図書館ではあまり見かけない光景で、読みたいと思う本をうまく見せられる出版社の技術力を再認識した。
- (委員) インターネットを経由して県立図書館の所蔵している本を地元の図書館で借りるときの具体的な手順を教えてください。
- (図書館) ホームページで蔵書を検索し、利用登録をしている方は「予約かご」に入れ、受取館（県立図書館窓口もしくは在住地図書館）を指定して、予約をかけていただく。
- (委員) 講座の講師や学校の先生などが講座や授業をする際、内容に関連したブックリストに、WebOPACに連携するQRコードを付加し、Web予約の簡易マニュアルと合わせて配布すれば、図書館利用（貸出）に結びつくのではないかなと思う。
- (委員) 第1回協議会での発言に対して、既に対応していただいていたりと、次年度事業に載せていただきありがたく思う。発言したこと全てが実現可能ではないと思うが、可能な範囲の中で実現していきたいという県立図書館の意欲が現れ、発言した甲斐があったように思う。色々な項目で目標設定があり、達成率が上がったり年々数字が上がっているのは県立図書館の努力の賜物だと評価する。講座の講師について、どの団体も講師探しに苦しんでいるため、講師の一覧表があると良い。分野ごとに、頼める講師のデータベースがあれば、大変ありがたく思う。

不要になった本の譲渡会について、神戸市でも実施されている。県立図書館でも計画に上がっているのを、是非実施してほしい。

学校サポートプロジェクトの充実について、広報の工夫が必要だと思う。小中学校は市町教育委員会、県立学校は県教育委員会が管轄しており、県教育委員会だけに働きかけても、難しいところはある。県教育委員会では、社会教育課を通じて高校教育課や義務教育課に学校サポートプロジェクトなど、県立図書館のことを広く伝えてもらいたい。また、兵庫県学校図書館協議会の全県的な大会や地区別の大会で、学校の先生方に県立図書館の取組を広報していただくなど、行政側と学校側での広報のやり方があるように思う。

県行政の主要事業等との連携について、来年度も展示等で連携を実施するとのことで、意見を反映していただきありがたいと思う。本庁に行かずとも県立図書館に来れば県の主要施策が展示されており、県全体のPRにもなり、県立図書館の展示としても良いと思う。夏祭りについて、毎年工夫し中身を充実され、参加人員が増加している。夏祭りの開催については多大な準備や労力を伴うと思うが、事前に完全予約制で、時間・人数限定でバックヤードツアーを夏祭りで実施できないか。県民の方々に、県立図書館に対して一層興味関心を持ってもらえと思う。簡単には実施できないと思うが、検討していただきたい。

(図 書 館) 50 周年事業の際、バックヤードツアーについては、休館日に実施したため実現できた。夏祭りは開館日に通常業務を行いながら実施している。通常の開館業務を行いながら実施するには人手が足りず、来館者の迷惑にもなるため実施することは大変難しい。バックヤードツアーは非常に好評だったため、可能な形で実施できるかどうかは検討したい。

(図 書 館) 講師の登録データベースについては、知事部局の生涯学習を担当している課にデータベースがあるが、更新がうまくいっておらず、使い勝手が良くなかった。県立図書館として運用させていただくにはどのような形が一番良いのか、時間がかかるかもしれないが検討させていただく。

学校サポートプロジェクトについては、行政側と学校側の両方のサイドからの広報を意識して取り組んでいく。

県の主要施策の展示については、県からの要望もあり、チラシやポスターが送られてきている現状である。分かりやすく提供できるよう工夫し、試行的にやっていく。

(委 員) 県立総合教育センターは、様々な方を講師に招いて講座を実施しているので、連携して情報共有をしたら良いと思う。

(委 員) 講座の講師データベースについては、色々な施設が持っていると思うので、県立図書館が1から全てを作らなくても、センターごとに持っているデータベースの情報を収集して一覧にしてもらえれば、そこから各自でアクセスして調べてもらえと思う。